



昭 島 市

市長：北川 穰一

【新たな市民農園マイファーム昭島開園】

宅地化農地を市民農園に開設することにより農地の保全を図るため

「マイファーム昭島」を開設しました。

市民の力を借りて農地の減少を遅らせる新たな市民農園です。

プロの農業者による栽培指導・農薬等の研修会また、農園利用誓約書には、美観を維持するために入園者に一定の協力をしていただくことがうたわれています。





あきる野市

市長：臼井 孝

【地産地消型農業の推進】

朝採りの旬の野菜をはじめ、とうもろこしやのらぼう菜、山菜などそれぞれの地区の特長を活かした農産物も提供しています。今後はあきる野ならではの地産地消型農業を目指していきます。





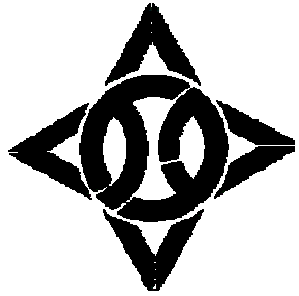
足立区

区長：近藤 やよい

【農業体験学習事業】

園児や児童等の食習慣や人格形成に重要な役割を果たす「農業に関する教育の振興に係る校外学習事業」を有効かつ効果的に実施するため、収穫を始めとした農業体験を区内農家の協力のもと推進しています。





板 橋 区

区長：坂本 健

【農業後継者の育成支援】

平成18年3月に結成した、板橋農業後継者の会「若葉の会」は、視察研修やイベント事業での直売等を通じて企業的経営を目指しています。板橋区は今後も若葉の会の活動を支援していきます。



稲 城 市

市長：石川 良一

【フルーツランド 稲城】

稲城市は、果実の栽培が盛んです。特に地域ブランド「稲城の梨」、東京生まれのぶどう「高尾」は、8月から10月の最盛期には贈答用高級フルーツとして全国各地に送られます。





江戸川区

区長：多田 正見

【都市農業が元気な江戸川区】

68万人が生活する江戸川区。大都市のなかで「都内第1位の生産量を誇る小松菜」と「東京の花どころ」といわれる花卉園芸が盛んに行われ、産業の一躍を担っています。



「江戸川区特産小松菜」



江戸川区の都市農業を
応援する キャラクター
えどちゃん



元気な都市農業をアピールするイベント「花の祭典」



青 梅 市

市長：竹内 俊夫

【遊休農地対策】

青梅市では遊休農地対策の取り組みとして、平成20年度から酪農農家と協力して飼料作物(デントコーン)の作付けを実施しています。平成20年度は1.7ha、平成21年度には新たに1.3haの遊休農地が解消されました。



大田区

区長：松原 忠義

【野菜と花の品評会】

農産物の栽培出荷技術の改良と、優良品種の普及に向け、区内農業者による品評会を実施しています。出品物は展示即売し、大田区の農業への理解につなげています。



葛飾区

区長：青木 克徳

【ブルーベリー観光農園】

水元地区に設置された2つの観光農園は、昨年から一般開放を始めました。今年の3月には農園の拡充工事も行い、収穫期には多くのお客様で賑わいを見せております。今後、さらなる成長が期待されます。



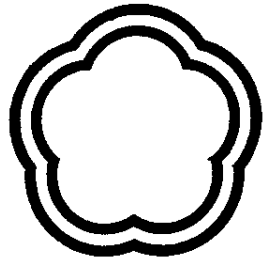


清瀬市

市長：星野 繁

【農で育むまちづくり】

農業まつり・中学生の農業体験・市民農園・消費者の農地見学等市民とのふれあい農業を進めています。また、農のある風景として、清瀬ひまわりフェスティバルを開催しています。



国立市

市長：関口 博

【生き生き都市農業推進事業】

国立市の貴重な財産である府中用水、矢川及び「ハケ下の湧水」の散策路を整備するとともに、生物多様性に配慮した水田で伝統的な農業を実施しています。また、国立産農産物をくにたち野菜として販路を確保していきます。



小 金 井 市

市長：稲葉 孝彦

【みんなでつくろう農業のあるまち
アグリタウン小金井をめざして】

新鮮で安全・安心な農産物を食卓に提供する農業者を支援するため、認定農業者及び小金井市独自に設けた認証農業者制度を活用し、担い手の育成と援農支援等を推進するとともに、都市農地の保全に努めています。





国分寺市

市長：星野 信夫

【農ウォーク 都市農業を育てる市民の集い】

市内の農地を農業者の説明を楽しみながら巡る「農ウォーク」は、平成16年より毎年開催しており、今年で7回目となりました。野菜の試食や収穫体験、市民と地元農業者による懇談会など、国分寺の農業を見て・聞いて・体験できる企画であり、参加者からは大変好評を得ています。





小平市

市長：小林 正則

【ブルーベリー栽培発祥の地】

小平市は、昭和43年に日本で初めてブルーベリーが栽培された「ブルーベリー栽培発祥の地」です。
今が収穫の最盛期を迎えており、生果のほかに、ケーキやジャムなどの加工品も多数作られています。

ブルーベリーキャラクター
「ぶるべー」





狛江市

市長：矢野 裕

【農業ウォッチングラリー】

毎年7月にJAマインズ狛江青壮年部と共催で、市民を対象に、若手農業者との交流、地元野菜及び都市農業への理解を目的に開催しています。例年100名近くの参加があり、クイズに答えながら市内圃場で収穫を体験しています。





杉 並 区

区長：田中 良

【ふれあい農業体験】

農業体験や農家との交流を通して、区内農業について区民に理解と関心を深めてもらうため、平成元年から続く事業です。今年度も7月に上高井戸にて開催され、約50名の区民が参加しました。



親子連れが目立つ
参加区民



枝豆の収穫体験



草花鉢植え体験



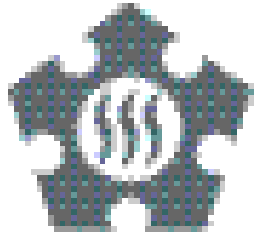
世田谷区

区長：熊本 哲之

【「せたがやそだち」流通促進モデル事業】

今年7月に、区内産農産物である「せたがやそだち」を多くの区民に知ってもらい農業振興と農地保全への理解を醸成し、流通拡大をするため、農地がない地域の商店街の青果店で「せたがやそだち」を販売するモデル事業を実施しました。





立川市

市長：清水 庄平

【食の体験 スマイルキッチン】

最近、子どもたちの野菜離れが危惧され、食育の推進が求められています。当市では、都の補助事業を活用して体験型市民農園の隣接地に食育関連施設を整備しました。農と食とをつなげ、地産地消を推進しています。





多摩市

市長：阿部 裕行

【多摩市 & 長野県富士見町

共同アンテナショップ Ponte（ポンテ）】

市内永山駅前、多摩市・友好都市富士見町の特産品のPR、販売を行うアンテナショップ Ponte(ポンテ)がオープンしました。

店で販売される市内産農産物が特に好評で、地産地消に大きく貢献しています。





調 布 市

市長：長友 貴樹

【特産物の推進】

JAMAINS調布地区青年部8名が立ち上がり、「調布市でも特産品を作りたい、元気な農業を知ってもらいたい」という強い気持ちから、「調布野菜カレー」が誕生しました。





中野区

区長：田中 大輔

【中野区親子農園事業】

18歳未満の子どもと同居する家族を対象に、昭和44年から開始しました。貸出区画は148区画(1区画9.9m²)です。親子などが自然に親しみ、青少年の健全育成を目指しています。



● 中野区親子農園所在地



西 東 京 市

市長：坂口 光治

【市内産野菜活用事業】

平成22年1月30日にJA東京みらい西東京地区女性部にご協力をいただき市内にお住まいの方を対象に料理教室を開催しました。里芋ごはん、とりささみとかぶの中華炒めなど計4品をつくり、出来上がった料理を参加者みんなで食べ、市内産野菜の美味しさを再認識しました。



西東京市農産物キャラクター

「めぐみちゃん」



練馬区

区長：志村 豊志郎

【地場農産物のブランド化事業】

練馬大根やビール麦「金子ゴールデン」の栽培を促進し、ブランド品の開拓を図っています。また、キャベツなどを始め、地場農産物の生産力を増強するための施策を展開し、高品質農産物の育成に努めています。





八王子市

市長：黒須 隆一

【農家直営農園の開設】

特定農地貸付法の改定を受けて、農家自らが市民農園を開設整備するための支援制度を、平成20年度に立ち上げ、現在9農園を開設。都の実践農業セミナー卒業生を中心に88名が利用。今後も遊休農地対策として推進する予定です。



羽 村 市

市長：並木 心

【小学生の稲作体験事業】

羽村市では、市内すべての小学校5年生の稲作体験事業を実施しています。稲作の体験を通じて子どもたちに農業や食べ物大切さを知ってもらうのが目的です。全農業委員9名と農家13名が指導にあたっています。





東久留米市

市長：馬場 一彦

【柳久保小麦のブランド化に向けた取り組み】
幻の小麦と言われ一度は生産の途絶えた「柳久保小麦」を復活させ、市内の農家や食品関連業者などと協力し、柳久保小麦商品の開発及び販売を行うなど、地域シンボルとしてのブランド化に向けた取り組みを行っています。



東 村 山 市

市長：渡部 尚

【生産緑地の追加指定】

平成14年度より生産緑地の追加指定を開始しました。
平成21年度までに延べ58件、62,920平方メートルを
追加指定しました。今後も積極的に農地の保全に努力し
ていきます。



東大和市

市長：尾又 正則

【じゃが芋掘り体験】

市と東大和市自然農法研究会の共催で、じゃが芋掘り体験を開催しました。89名の参加者は、「たくさんとれた」「大きいの見つけた」「毎回楽しみにしている」と感想を話していました。





日 野 市

市長：馬場 弘融

【東光寺上地区農あるまちづくり】

「日野の農業の発信拠点」として、都の支援を受けながら、東光寺上(とうこうじょうえ)地区において農の学校、観光農園、市民農園などの市民交流事業や農の散策コースなどの周辺整備を行い、都市と農業が共生するまちを目指します。





町の出

町長：橋本 聖二

【地産地消の推進】

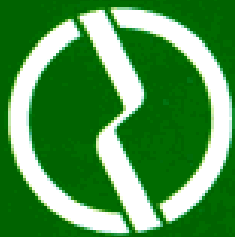
ブルーベリー・みかんなど摘み取り園を観光農園として広くPRし、地元農産物の販売や、地元加工品の販売を「ふれあい農産物直売所」中心に促進し、農業の維持振興を図っています。



地元酪農家による
ソフトクリームの販売



みかん摘み取り園（川北みかん）



府 中 市

市長：野口 忠直

【子ども農業体験推進事業】

子どもに農業体験をさせることで、自然に触れる機会を提供し、食べ物の安全性や大切さ、自然の恵み等について学んでもらうことを目的に、市立小学校17校で水稲栽培や野菜栽培、椎茸栽培の体験を実施しています。





福 生 市

市長：加藤 育男

【地産地消を推進】

JA西多摩福生支店直売所での販売、収穫体験・農地ウォークなど市民交流事業や学校給食での利用により、地産地消の推進を図ります。





町 田 市

市長：石阪 丈一

【農業研修事業】

町田市では、援農ボランティアなど「自ら耕作できる技術を持った人材」の育成を行い、都市農地保全を図るため、「農業研修事業」を2010年4月から2年コースで開講しました。



瑞穂町

町長：石塚 幸右衛門

【農地流動化の推進】

瑞穂町では増加傾向にある遊休農地の対策、認定農業者の支援策として、農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定による農地の流動化に取り組んでいます。最近では、新規就農者の利用権設定を行った例もあります。

設定前



設定後





三鷹市

市長：清原 慶子

【農のあるまちづくり】

生産緑地の追加指定を含め、農地の保全と活用、都市農業としての発展及び生産性の向上を図り、市民に新鮮で安全安心な市内産作物と緑地を提供する「農のあるまちづくり」の推進を行い、良い農地の顕彰も行っています。





武蔵野市

市長：邑上 守正

【このとりベジタブル事業】

子育て世代が子どもとともに、身近な農業に触れたり、自然に親しむことを願って、赤ちゃんの誕生をお祝いして市内産の野菜や果物の引換券2,000円分を贈っています。これにより、直売所利用客が若返りました。





武蔵村山市

市長：藤野 勝

【東京でみかん狩り】

都内で、随一みかん狩りができます。

狭山丘陵の南斜面にあるみかん園が7カ所あります。皮が薄く、糖度と酸味がほどよい品種「宮川早生」のもぎとりが10月下旬から楽しめます。





目黒区

区長：青木 英二

【農産物品評会】

区内の農家で生産された農産物の品評会を、夏と秋の2回行っています。少ない生産量ですが、丹精込めて作られた野菜や果物が出品され、その後の即売を楽しみに待っている区民の方々に喜ばれています。

